

和平米区教育訪問団の皆さんが来訪

1月22日(火)から24日(木)の3日間、友好都市である中国天津市和平米区から、小学生12人と教諭、教育関係者などからなる教育訪問団16人が、来訪されました。



▲お互いの学校生活などについて意見交換する子どもたち

1月23日(水)、役場を訪問し町長や教育長と懇談した後、蓮池小学校と播磨小学校に分かれてそれぞれの児童と交流。お互いに良い刺激を受けたようでした。その後ニュースポーツを楽しみ、夜は歓迎交流会で集まった人たちと、たこ焼やお好み焼などを食べながら友好を深めました。また、訪問団メンバーが披露してくれた歌やダンス、楽器の演奏のすばらしさにはみんなびっくり。翌日には、加古川市防災センターや県立考古博物館を見学し、野添北公園遊生庵でお茶席も体験しました。

兵庫県自治賞 本谷かおるさんが表彰されました

長年にわたり、播磨町消費者協会会長および東播磨消費者団体協議会理事を務めておられる本谷かおるさん(北本荘)が、兵庫県自治賞を受賞されました。2月6日(水)に加西市健康福祉会館で行われた受賞式のと、本谷さんは、「消費者協会の一員として、会員の方と共に楽しく活動してきた結果が今回の表彰につながり、とてもうれしく思います」と話しておられました。



▲表彰を受ける本谷さん

穏やかな冬日和、播磨町ロードレース大会で793人が出走しました



▲家族と一緒に。走る気満々のファミリーの部

前日まで厳しい寒さと小雪の舞う天気だったにもかかわらず、1月27日(日)は朝から風もなく穏やかに晴れ、どの選手も順調にウォーミングアップを行うことができました。



「自分で出たいと言って走ったけど、しんどかった」と、完走証を見せる村上帆風さん(播磨小4年生)



▶記録が気になるゴール前



▲ボランティアさんから完走証をもらう。今年は何位かな

東播磨ふれあいネット (BAN-BANテレビ 11チャンネル)  
播磨町・稲美町・加古川市・高砂市の情報番組です。

3月の放送予定 (収録場所 播磨町)

前半 3月3日(月)~16日(日)

- 特集 古墳発掘調査~時光寺古墳(高砂市)
- ふれあいインフォメーション(各市町からのお知らせ)

後半 3月17日(月)~3月30日(日)

- 特集 健康いきいきセンターで、いい汗流して健康アップ(播磨町)
- ゆうゆうライフ(高砂市)

放送時間(第1・3月曜日の①以外は再放送)30分番組

- 月・水・金 ①午前10時 ②午後5時 ③午後10時
- 火・木 ①正午 ②午後7時
- 土・日 ①午前9時 ②午後6時 ③午後11時

わんぱくはりまっ子



ひわくるみ 椛皮 来望ちゃん(0歳1ヵ月)、ゆきと 幸永くん(2歳)  
東野添

兄妹仲良く、元気いっぱい育ててね!  
お父さん・お母さんより



このコーナーに出る「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(未就学児) 広報担当まで電話をお願いします。

楽屋裏

私は、播磨町ロードレース大会の全てのスタートとゴールで毎年カメラを構えています。スタート直前のランナーの表情と、ゴール直前のライバル同士が互いをたたえ合う姿が好きです。

並んでゴールした年代の異なる成人男女3人が、「ありがと、ありがと、お陰でいいレースが出来たと固い握手を交わしているのを見ました。ゴール直前まで競い合い1位、2位でゴールした中学生は、地区の大会でもライバル同士の間柄の様子で、肩で息をしながら歩み寄って言葉を交わしていました。次の大会での再会を約束したのでしようか。

表紙の写真は、闘争心いっぱい、先を争って前に出ようとする小学生高学年のスタートの表情です。(宮)

いいね! はりま

町政 レポート No.14



▲中国からのお客様と

■中国の天津市和平米区から、かわいいお客様が来町されました。友好都市和平米区の小学生12人を含む訪問団です。将来の夢はと聞くと、科学者、音楽家、パイロットなど、それぞれが目指すものをしっかりと持たれていて感心しました。勉強も含めてかなりの努力をされているようでした。交流会では、ダンスや歌など、思わず見とれてしまうくらいの特技を披露していただきました。

■播磨町のロードレース大会が今年30回目を迎えました。寒い1日でしたが、絶好のマラソン日和に新島を駆け抜けたのは、920人の選手たちでした。回を重ねるごとに参加者が増え、各地から家族連れなど多くの方で賑わいます。

今年はゲストランナーとして、子育てをしながら活躍中の田中千洋選手をお迎えしました。また、最後のくじ引きでは、テレビの「サスケ」でお馴染みの山田勝己さんにも出ていただき、閉会式を盛り上げていただきました。30回の間、事故もなく無事続けてこられたのは、多くの方々のご尽力のおかげと思っています。

■平成6年3月に播磨町老人クラブ連合会が発刊された「ふるさと阿間」。最近、母の遺品を整理して出てきた小さな本に、戦前、戦中、戦後を生き抜いてこられた約100人の老人クラブ会員の「思い出」が掲載されていました。大正・昭和期の町の様子が伺えて、大変興味深い小冊子です。寄稿された多くの方が、今は亡き人となられています。喜瀬川が氾濫したこと、本荘の浜に海亀が来ていたこと、狐に化かされた話、戦争体験等々、ほんの一昔前のことなのに隔世の感があります。もし、ご家庭にこの本があれば、是非ご家族でご一読いただければと思います。町立図書館にもあります。播磨町というふるさとにいつそう愛着を感じていただけることでしょう。次世代に伝えていくべき一冊であると思います。

播磨町長 清水ひろ子

# 親子で楽しむ町内の文化財

## パートII

### 12 本荘の阿閉漁港あえ

今月は阿閉漁港にきています。おだやかに漁船とレジャーボートが泊まっている港です。実はこの「阿閉」の地名こそ大切な文化財なのです。



▲奈良時代から続く歴史ある港



#### クイズ

なぜ大切な地名なのでしょう。

- ①「阿閉」は明治時代の合併でできた地名だから
- ②「阿閉」は豊臣秀吉が感激してつけた名だから
- ③「阿閉」は今も奈良時代のままの漢字が使われているから

「歴史の宝箱」と言われている播磨町。町の面積は狭いけど、文化財の数は多く、少し歩けばそこかしこに、地域の人びとが昔から大切に受け継いできたものがあります。そのような街角の文化財を紹介していきます。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000

今では港の西側にレジャーボートも並ぶ阿閉漁港ですが、1300年前の奈良時代は、国際港として大陸まで行く「大船」が泊まっていた港でした。『播磨風土記』に「阿閉津」と書かれています。この中には、景行天皇が「印南別嬢」を加古郡まで迎えに来られたときに立ち寄った港とあります。

このように「阿閉津」は古代の外洋の「大船」に乗ってやってきた使節を迎えたり、加古川をさかのぼる川船へ荷を積み替えてたりして、にぎわっていました。その後、加古川の洪水で地形が変わり、高砂へその役が移ります。

ここで注目していただきたいのは、「阿閉」の「閉」です。読みにくい字ですが、奈良時代には「へ」「へ」の音を表す文字として「閉」は一般に用いられていました。たとえば、当時には「阿閉皇女」がおられました。

その後、なんらかの理由で「閉」に代わるなどして、今にいたります。とともに、伊賀国にあった「阿閉」も「阿拝」と書き方が変わっていきました。その結果「閉」の漢字を用いた地名は、全国をみても、もつこ「阿閉」だけといわれています。だから、「阿閉」という地名は奈良時代の趣を残す大切な地名といえるのです。



●クイズの答 ③「阿閉」は今も奈良時代のままの漢字が使われているから

#### 町の人口 2月1日現在

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,376人(+16人)

男...16,863人(+18人)

女...17,513人(+2人)

世帯数...13,302(-24)